三重県埋蔵文化財調査報告２２１

蛇谷貝塚発掘調査報告

── 桑名市下深谷部町字蛇谷所在 ──

２００１．３

三重県埋蔵文化財センター

序

蛇谷貝塚が位置する桑名市は三重県の東に位置します。揖斐・長良川という大きな川に接し、三重県の玄関口として古来よりたくさんの人々を出迎えてまいりました。江戸時代に描かれた『東海道五十三次』にでてくる、東海道名物の「桑名の焼蛤」と言えば、ご存じの方も多いでしょう。

さて今回、県営ほ場整備事業予定地内に蛇谷貝塚という周知の遺跡が含まれることが分かりました。貴重な文化遺産である埋蔵文化財を保護していくことは、現代に生きる私たちの重大な責務のひとつですが、一方で生活をより良くする開発も必要です。そこで、その取扱いについて何とか遺跡が保護されるよう協議を重ねましたが、遺跡の一部について現状保存が難しいということになり、やむなく発掘調査を行い、記録保存を図ることになりました。

本書が三重県の歴史研究の一助となるとともに、文化財保護の啓発のお役に立てれば幸いです。

調査に際しては、地元の方々をはじめ、三重県農林商工部農業基盤整備課、北勢県民局桑名農政部、桑名市教育委員会など関係各位のご協力をいただきました。最後になりましたが、厚くお礼申し上げます。

平成13年3月

三重県埋蔵文化財センター
所長　藤　澤　英　三

例　　言

1　本書は三重県桑名市下深谷部町字蛇谷に所在する蛇谷貝塚の発掘調査報告書である。

2　本調査は三重県教育委員会が三重県農林商工部より執行委任を受けて、平成12年度県営ほ場整備事業（下深谷地区）に伴って、実施したものである。

3　調査は下記の体制で行った。

調査主体　三重県教育委員会

調査担当　三重県埋蔵文化財センター

調査第一課　技師　角正淳子

萩原義彦

4　調査にあたっては、三重県農林商工部農業基盤整備課、北勢県民局桑名農政部・桑名市教育委員会・（株）水谷組の協力を得た。

5　当報告書の作成は、上記担当者のほか調査第一課及び資料普及グループが行った。遺構・遺物の写真撮影及び執筆は上記担当者が行い、全体の編集は角正が担当した。なお、各章の文責は目次及び文末に示した。

6　本書で報告した記録及び出土遺物は全て三重県埋蔵文化財センターで保管している。

7　スキャニングによるデーター取り込みのため若干のひずみが生じています。各図の縮尺率は、スケールバーを参照ください。

目　次

Ⅰ　前言……（角正）……1

Ⅱ　位置と環境……（角正）……1

Ⅲ　調査の結果……（角正・萩原）……4

挿図目次

第１図　遺跡位置図……2

第２図　調査区位置図……3

第３図　出土遺物実測図……4

第４図　Ａ区北壁土層断面図……5

第５図　Ｂ区西壁土層断面図……6

表目次

第１表　出土遺物観察表……7

図版目次

図版１　調査前風景／Ａ区全景／Ｂ区全景……9

図版２　調査区土層（Ａ区）／調査区土層（Ｂ－１区）／調査区土層（Ｂ－２区）／墨書土器／出土遺物……10

Ⅰ　前　　言

1　調査の契機と経過

蛇谷貝塚は桑名市下深谷部町字蛇谷に所在する周知の遺跡である。今回、県営ほ場整備事業（下深谷地区）の事業予定地に遺跡が含まれることが分かった。これを受けて、平成10年度に試掘調査を実施したところ、約2,400㎡について遺跡の広がりを確認した。そこで、その取扱について、保護に努めるよう、三重県農林水産商工部農業基盤整備課と三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センターで協議を重ねた結果、現状保存が困難な部分200㎡についてやむなく発掘調査を実施し、記録保存を図ることになった。

調査は平成12年４月24日より開始し、同月28日に終了した。調査の方法は、調査区の幅が２ｍ前後と狭いため、重機による掘削を中心に行った。本来ならば、遺構検出面での精査をすべきであるが、遺構検出面に相当する層までの現地表面からの掘削深度が３ｍをこえること、崩落しやすい土壌のうえ多量の湧水があること等から、作業に危険が伴うと判断し、かつ工事による掘削がこの層にまで確実に及ばないことを確認したため、精査は行わず、遺物包含層の性質を確認する調査を主に行った。

2　文化財保護法等にかかる諸通知

文化財保護法（以下、「法」）等にかかる諸通知は以下により行っている。

・法に基づく三重県文化財保護条例第48条第１項（三重県教育委員会教育長あて）
　平成12年４月17日付　農基第271号
・法第58条の２第１項（三重県教育委員会教育長あて）平成12年４月25日付　教埋第44号
・遺失物法にかかる文化財発見・認定通知（桑名警察署長あて）
　平成13年１月23日付　教生第229－12号

3　調査の方法

調査の掘削は全て重機により行った。上記の理由より遺構面での精査を行わなかったため、作成した図面は土層断面図のみである。縮尺は１／20である。

Ⅱ　位置と環境

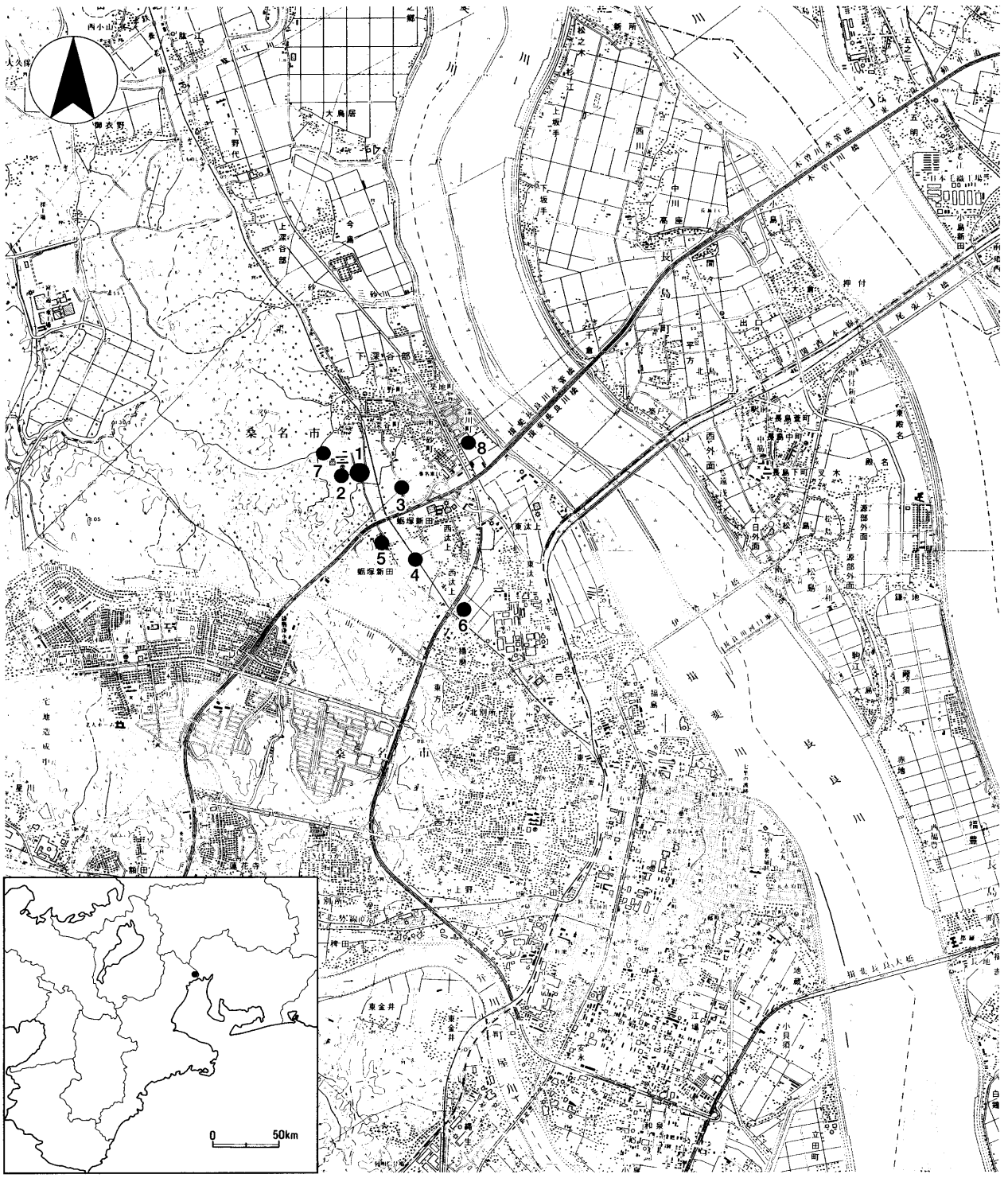
桑名市は三重県の北部に位置し、愛知・岐阜両県境に近接する。東は揖斐・長良川、西南には員弁川が流れ、南は両川の河口となり伊勢湾に面する。北及び西は養老山地の東南端にあたり丘陵地を形成している。

蛇谷貝塚（１）は桑名市下深谷部町字蛇谷に位置する、周知の遺跡である。下深谷部町は、桑名市の北部に位置し、東は揖斐川に臨み、西は丘陵地である。旧名を深江辺と称したのが、のち深矢部、江戸時代に深谷部に改称したと伝えられる。蛇谷貝塚は揖斐・長良両川によって形成された沖積地に立地する。

蛇谷遺跡のすぐ西、標高50ｍの丘陵斜面上には、山王遺跡（２）が位置する。山王遺跡は昭和54年に、高校建設に伴い県教育委員会によって発掘調査が行われた。調査の結果、下からマガキ・ハマグリ・シジミと層位的に確認できる貝層が発見され、貝層中から山茶碗などが出土し、鎌倉時代の貝塚を中心とした遺跡であるとわかった。

蛇谷貝塚周辺には古墳時代から中世の遺物が散布している散布地として、西山遺跡（３）・南外面遺跡（４）が所在する。また南には貝層が露出している貝塚として蛎塚貝塚（５）が所在する。蛎塚貝塚は古くから知られており、明治時代には貝層が約3,000㎡、厚さ３ｍにも及び広がっていたといわれる。須恵器・土師器などが出土しており、古墳時代の貝塚と考えられている。この他、同様に古墳時代の貝塚として、平成８年に桑名市教育委員会によって発掘調査が行われた中縄遺跡（６）が所在する。

以上のように蛇谷貝塚周辺では、牡蠣殻を中心と



1 蛇谷貝塚　2 山王遺跡　3 西山遺跡　4 南外面遺跡

5 蛎塚貝塚　6 中縄遺跡　7 奥篠遺跡　8 柳ヶ島遺跡

第1図　遺跡位置図（S＝1：50,000、国土地理院『弥富』・『桑名』S＝1：25,000より）

した貝が層状に堆積していることが伺える。

参考文献

・『三重県埋蔵文化財年報10　昭和54年度』
1980.3　三重県教育委員会

・『桑名市史　本編』1959.3　桑名市教育委員会

・『三重県の地名』1983.5　平凡社

・斎藤　理「中縄遺跡」『桑名市文化財調査報告書
平成8年』1997.3　桑名市教育委員会

・『桑名市遺跡分布地図』1995　桑名市教育委員会

第２図　調査区位置図（Ｓ＝１：2,000）

Ⅲ　調査の結果

1　概要

調査区は水路部分で、道路を挟んで逆Ｌ字状に調査を行った。便宜上、道路を挟んで西側をＡ区、東側をＢ－１、Ｂ－２区と称する。調査区の幅はいずれも約２ｍで、現地表面からの掘削深度が約1.8ｍ前後で貝を含む層に達した。本来ならば、この貝層の下を遺構検出面とし、精査を行うべきであるが、貝層からの湧水が激しく、調査区の壁が崩落する危険性があった。そこで、工事による掘削深度を現地で再度確認したところ、貝層より下に及ばないと判断した。そのため、貝層の有無及び性質を確認する調査に変更し、適宜その厚さの確認を行った。

2　層序

基本的な層序は、第一層：耕作土、第二層：緑灰色粘土、第三層：オリーブ黒色粘土、第四層：灰色砂で、この第四層に貝が含まれていた。第四層からは土器が出土し、遺物包含層に相当すると考えられる。遺物包含層として確認したのはこの第四層のみで、貝が確認できたのもこの層のみであった。第四層はＡ区、Ｂ区ともに確認でき、その上面の標高は約6.8ｍ前後である。この層の厚さは場所によって違うが、概ね0.8ｍ～１ｍである。（角正）

3　出土遺物

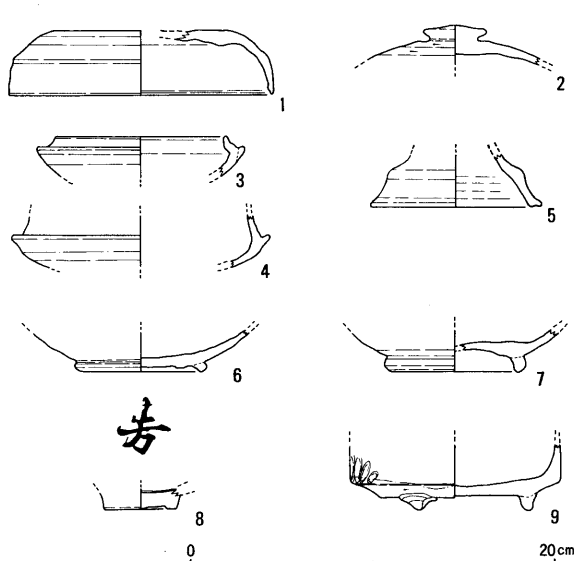
遺物は、須恵器杯蓋・杯身・山茶碗・灰釉陶器・陶器・磁器・貝類が出土した。

須恵器（１～５）　１・２は杯蓋、３・４は杯身、５は高杯である。１は、平らな天井部からやや強めに屈曲して広がる。稜部は、浅い沈線が全周して、つくられる。口縁部は、内面に段差が生じるように成形されている。ＴＫ10形式に相当するのであろう。２は、天井部に宝珠つまみが貼り付けられている。肩部は、柔らかな曲線を描く。ＭＴ21形式であろう。３・４は、底部が欠損している。立ちあがりは、３がやや内傾気味で４が垂直気味である。受部は、斜め上方を向く。それぞれＴＫ10・ＴＫ43形式に相当するとみられる。５は、高杯の脚部とみられる。器壁が厚みを増し、段を形成する。脚部端部は、やや丸みを帯びてまとまる。[1]

灰釉陶器（６・７）　６は、外面底部に墨書がある。「吉」ないし「方」の変形であろうか。異字体である。高台部は断面台形である。７は、高台部がやや下方向につまみだされたようにのびる。それぞれ黒笹14～90号窯式とみられる。[2]

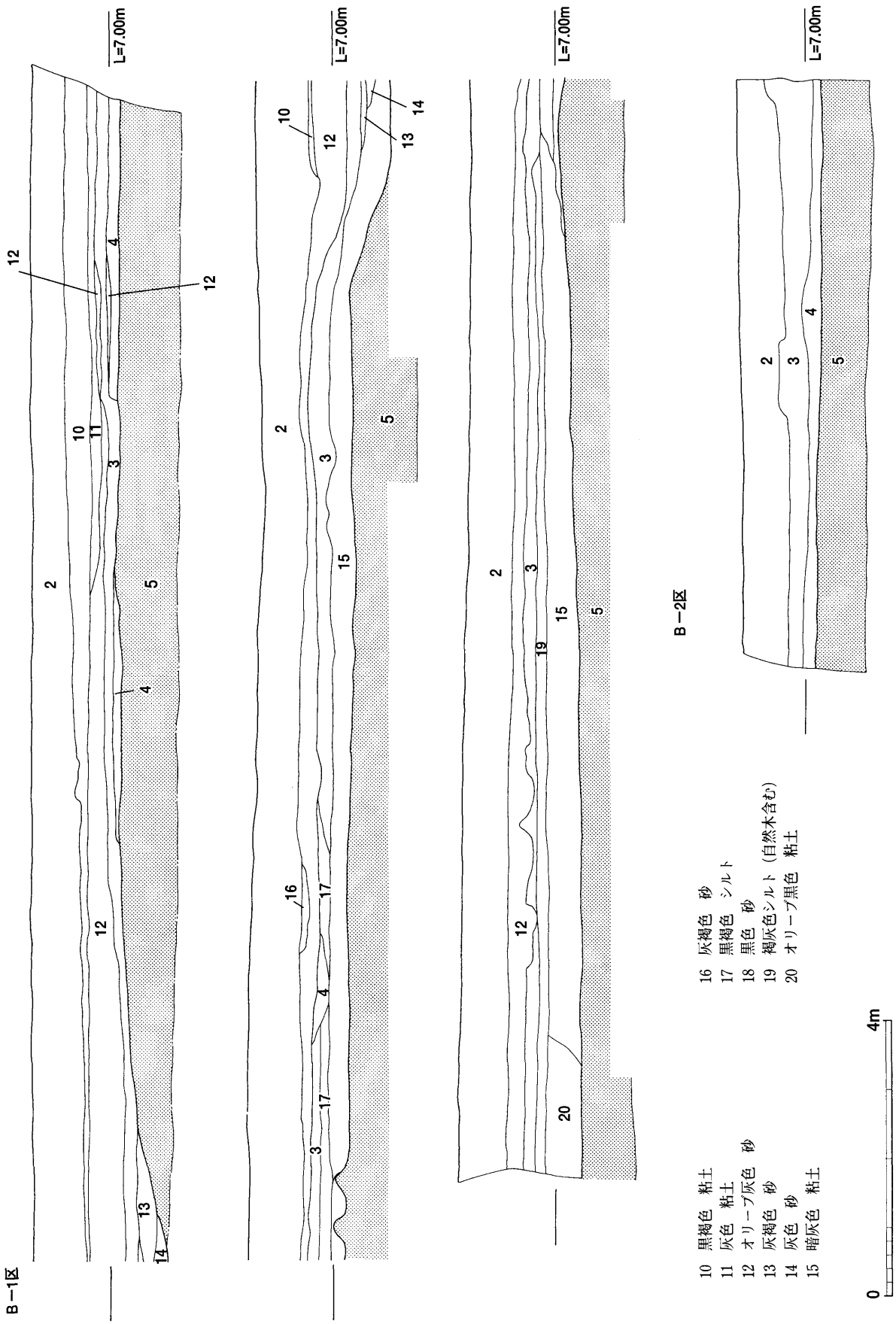
陶器（８・９）　８は、陶器椀の高台部分だけである。天目茶椀とみられる。高台は、削り出しによってつくられる。鉄釉は、高台部を除き全面にかけられる。９は、陶器香炉の底部であり、底部の外面を除いて鉄釉がかけられる。文様は、彫り込みによってなされている。脚は、底部のやや内側に３つ貼り付けられる。18世紀末～19世紀前半頃のものであろう。

貝類　貝類は、２種類存在している。二枚貝綱翼形目イタボガキ科マガキと異歯目マルスダレガイ科ウスハマグリにわかれる。今回出土したものは、ほとんどがマガキである。一般的に現在も食用とされているもので、分布域はほぼアジア全域に生息する。河口部の淡水の影響下においてよくみられる。生息環境によって殻形・殻の厚み・凹凸が異なる。カキは、左殻・右殻によってなり、左殻の表部分は白く、右殻は厚い。両方とも成長線の箇所において葉状に重なりあう。ハマグリは、現在においても食用であ



第３図　出土遺物実測図（Ｓ＝１：４）

第4図　A区北壁土層断面図　(S＝1：80)



第５図　Ｂ区西壁土層断面図　（Ｓ＝１：80）

る。分布域は相模湾以南と日本海に生息する。殻表面は、普通、成長線しか認められない。　（萩原）

4　まとめ

種々の制限から、調査では、遺物包含層を確認したにとどまる。この遺物包含層について若干の私見を述べておく。

出土した遺物は須恵器、土師器がほとんどである。出土量は非常に少なくコンテナボックスに3箱程度であった。また遺物表面は磨滅が進んでおり、ローリングを受けているようである。含まれる貝は9割以上がマガキであり、左殻・右殻がくっついた状態のままのものも見られた。

遺物量の少なさ、貝の状態などから、貝塚本体とは考えにくく、自然堆積の可能性が高い。あるいは調査区すぐ西の丘陵上に同時期の遺跡である、山王遺跡が存在することから、この遺跡より崩れてきた層の可能性も考えられる。いずれにしろ、層の確認を行ったにすぎない調査のため、断定はできない。

（角正）

[註]

①須恵器の編年は以下の文献による。
田辺昭三『須恵器大成』角川書店　1981
②斉藤孝正「猿投窯における灰釉陶の展開」
『考古学ジャーナル』No.211　1982

報告書番号	実測図	種類	器種	出土遺構	計測値（cm）			調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
					口径	底径	器高					
1	001-06	須恵器	杯蓋	灰色砂層	14.4		残高3.5	天井部～口縁部内面回転ナデ、口縁部～体部下半外面回転ナデ、体部上半外面ケズリ、天井部外面回転ナデ	やや密	並	褐灰色　5YR5/1 灰　色　N4/0 褐灰色　7.5YR5/1	
2	001-07	須恵器	杯蓋	灰色砂混貝層		つまみ径3.4	残高1.9	天井部内面回転ナデ、天井部外面回転ナデ、つまみ貼り付け後ナデ	やや粗（～0.2㎜以下の砂粒含む）	並	灰　色　N6/0	
3	001-03	須恵器	杯身	灰色砂混貝層	9.4	受部径11.3		内外面回転ナデ	やや密	並	にぶい赤橙色　10YR6/4 赤灰色　10YR5/1	
4	001-04	須恵器	杯身	灰色砂混貝層		受部径14	残高2.8	内外面回転ナデ、体部外面回転ケズリ	やや密	並	灰白色　N7/0	
5	001-08	須恵器	高杯	灰色砂混貝層		9.5	残高2.8	内外面回転ナデ	やや密	並	灰白色　5Y7/1	
6	001-01	灰釉陶器	椀	灰色砂混貝層		7.2	残高2.1	底部～体部内面回転ナデ、体部外面回転ナデ、高台部貼り付け後ナデ、底部糸切り	密	並	灰白色　N8/0	
7	001-02	灰釉陶器	椀	灰色砂混貝層		7.7	残高2.1	底部～体部内面回転ナデ、体部外面回転ナデ、高台部貼り付け後ナデ、底部糸切り	やや密	並	灰白色　N7/0	
8	001-09	陶器	椀	緑灰色粘土		4	残高0.9	底部内面回転ナデ、高台部ケズリ出し、底部ケズリ	やや密	並	赤灰色　2.5YR4/1 灰白色　5Y8/1	釉：黒褐色 2.5Y3/2
9	001-05	陶器	香炉	耕作土		8.2	残高3.6	底部～体部内面回転ナデ、体部外面回転ナデ、底部ケズリ	密	並	灰白色　10YR8/2 黄灰色　2.5Y6/1	釉：暗褐色 7.5YR3/3 三足貼り付け

第1表　出土遺物観察表

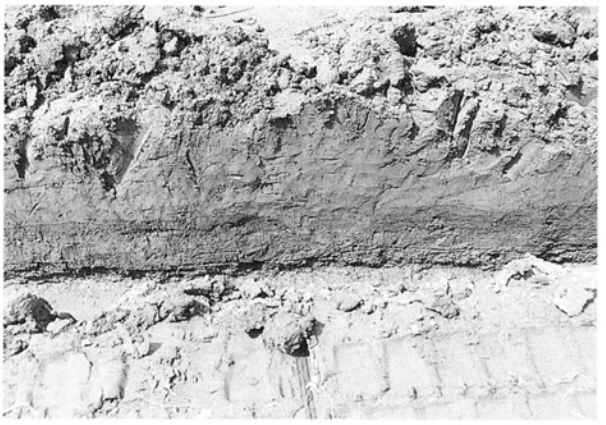
図版1

調査前風景（南から）

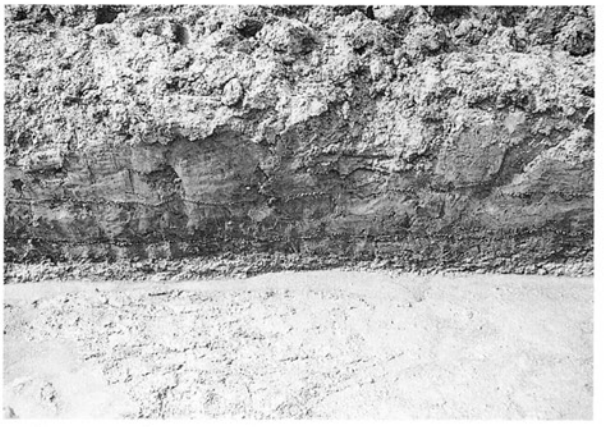
A区全景（東から）

B区全景（南から）

図版2



調査区土層（A区）



調査区土層（B－1区）

調査区土層（B－2区）

墨書土器

出土遺物

報告書抄録

ふりがな	じゃたにかいづかはっくつちょうさほうこく
書名	蛇谷貝塚発掘調査報告
副書名	
巻次	
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	221
編著者名	角正淳子・萩原義彦
編集機関	三重県埋蔵文化財センター
所在地	〒515−0325　三重県多気郡明和町竹川503　TEL 0596−52−1732
発行年月日	西暦2001年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
じゃたにかいづか 蛇谷貝塚	くわなししもふかや 桑名市下深谷 べちょうあざじゃたに 部町字蛇谷	24205	28	35° 5′ 15″	136° 2′ 25″	20000424 ～20000428	200	平成12年度県営ほ場整備事業(下深谷地区)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
蛇谷貝塚	貝塚	古墳時代		須恵器	

平成13(2001)年3月に刊行されたものをもとに
平成19(2007)年11月にデジタル化しました。

三重県埋蔵文化財調査報告２２１

蛇谷貝塚発掘調査報告

２００１年３月

編集
発行　三重県埋蔵文化財センター
印刷　文化印刷有限会社